

# 1 はじめに

## 下野市学校教育計画 2『豊かな心』を育む教育の推進

視 点	努力目標	努力点
(2) 読書活動の 推進	①学校図書館の整備・充実を図る。	ア司書教諭等を中心に全職員が協力して読書環境の整備、学校図書館の活性化に努める。 イ市の図書館との連携・協力を密にする。 ウ図書システム活用による貸出・返却作業や蔵書確認を正確かつ効率的に行えるよう担当教員と図書支援員が連携した体制をつくる。
	②読書意欲をもたせ、読書習慣の形成を図る。	ア学校での一斉読書活動の時間を定期的に日課に位置付け、読書の習慣化に努める。 イ教員や地域ボランティアの読み聞かせや、委員会活動の充実などにより、本に親しませ、読書の楽しさを体験させる。 ウ家族などで読んだ本について話し合ったり、好きな本を紹介し合ったりする。「家読」を奨励する。

子供の読書活動をより一層推進していくためには、市立図書館と学校図書館が連携・協力を行うことが重要であると考えます。連携とは図書館利用者としての児童生徒を育成するために館種を越えて共に学びの条件を整備し支援していくことである。また小学校・中学校生活を通して一貫した継続的な読書指導が、生涯を通して読書に親しむための素地の育成に繋がると思われる。

上記の目標を受け、部会では「市立図書館と学校図書館との連携」「小中連携」の実践を通して、読書活動の推進を図るよう努めた。

## 2 市立図書館と学校図書館の連携について

### (1) 実施内容と方法

実施内容	方 法
市立図書館から学校図書館への団体貸出	・定期的に、学級に配本する。 ・授業等で活用したい本を貸出する。 ・必読図書に選定した本の冊数を確保するため、貸し出してもらう。
ブックトーク	・図書館司書やボランティアによるブックトークによる本の紹介を「読書週間」等の機会に実施する。
児童による市立図書館への「おすすめの本」の掲示	・児童が国語科で学習、制作した作品を市立図書館に掲示する。
市立図書館司書による学校図書館訪問	・図書館運営の助言をしてもらう。(配架・廃棄等の助言)

### (2) 成果

○市立図書館の本を教室等に定期的に貸し出してもらうことで、本をより身近に置き、手に取る機会が増えた。また、司書が選定した良書に出会う機会となり、朝の読書にも活用し、より意欲的に読書に取り組む姿が見られた。

- 教科等、授業で活用したい本は、事前に連絡をしておき、図書館司書に選書してもらった。学校図書館にはない本が見つかったり、より多くの本を確保したりすることができた。
- ブックトークでは、テーマに従ってたくさんの本を紹介してくれることに驚きをもっている児童が多かった。本のあらすじの紹介や読み聞かせが途中で終わり、自分で続きを読むことになるため、学校図書館や市立図書館で自主的に読書に励む児童も見られた。活動を通して、本への関心を高める機会となった。
- 国語等で制作した作品を市立図書館に掲示するというめあてをもって児童が学習に意欲的に取り組んだ。また、市立図書館に足を運ぶよい機会になった。
- 学校図書館を市立図書館司書に見てもらい助言をいただくことで、よりよい学校図書館に近づくことができた。



### (3) 課題

- 市立図書館からの本の団体貸出は、できるだけ多くの機会を設定したい。また保護者ボランティアの協力を得て、月に1回程度貸出を実施している学校があるが、今後もボランティアの人材育成などに積極的に取り組んでいく必要がある。
- 年度当初に、学校図書館と市立図書館の連携内容・項目・時期を明確にし、計画的に実践できるよう検討する。

## 3 小中連携について

### (1) 実施内容と方法

実施内容	方 法
「読書郵便」の交流 (中学1年生制作)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生が国語科の学習で制作した「読書郵便」を市立図書館管内の小学校に掲示する。</li> <li>・紹介された本で、小学校図書館にあるものを郵便と一緒に展示する。</li> <li>・郵便を受け取った児童達が、中学生に返事を書く。</li> </ul>
巨大紙芝居の発表 (美術部員制作)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に市立図書館が、市広報誌に案内を掲載したり地域の小学校へちらしを配布したりする。</li> <li>・市立図書館にて、一般来館者に向けて紙芝居を発表する。</li> <li>・発表を聞いた小学生が、中学生に感想を届ける。</li> </ul>

### (2) 成果

- 中学生の「読書郵便」制作では、目的・展示場所・対象を意識しながら本を選定することができた。はがきサイズの紙面に、内容をより分かりやすく伝えるために、一冊の本を熟読する意識を高めることができた。また、身近な存在である中学生が書いた「読書郵便」を小学生が読むことで、読書への喚起を図ることができ。
- 手作りの紙芝居を、地域の市立図書館で発表することにより、公共図書館をより身近な場所と感じさせることができ。小学生の見学態度が立派であり、中学生の発表を真剣に聴いていた。感想を交流する時間も確保することができた。市立図書館から、小学校に紙芝居のお知らせを配布していただいたので、より多くの人々が足を運ぶよい機会となった。今後継続することで、市立図書館の利用率も高まると思われる。

### (3) 課題

- 中学校1年国語科単元「読書郵便」を学ぶ際には、市内4中学校区ごとに同一歩調で実施することが望ましい。その際、小学校の低・中・高学年毎に発達段階に応じた図書紹介ができることよい。そうすることで、小中学校の読書の輪がさらに広がっていくと考えられる。



〈中学生の「読書郵便」の展示・小学校にて〉



〈中学生の紙芝居発表・南河内図書館にて〉

## 4 おわりに

### (1) 成果

- 学校図書館と市立図書館では、活動内容や資料内容に様々な違いがあることを踏まえ、そこで働く者同士の情報交換や交流の機会をもつことができたことは、相互理解の第一歩であり連携への契機となった。
- 個人の連携から、組織の連携へと拡大することで、より一層活動内容が深まり、児童生徒の読書推進へと繋がったと思われる。
- 学校図書館と市立図書館が情報を共有することで、児童生徒の多様化するニーズに対応可能となった。

### (2) 課題

- 学校図書館と市立図書館の資料のデータ化、ネットワーク化を進め、互いに情報を提供できるよう情報化の推進、環境の整備が必要である。
- 団体貸出の効果は顕著であるが、運搬方法については検討の余地があり、その負担軽減を図ることが重要である。